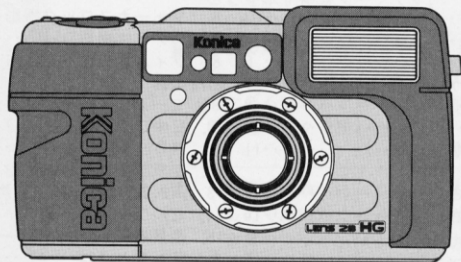
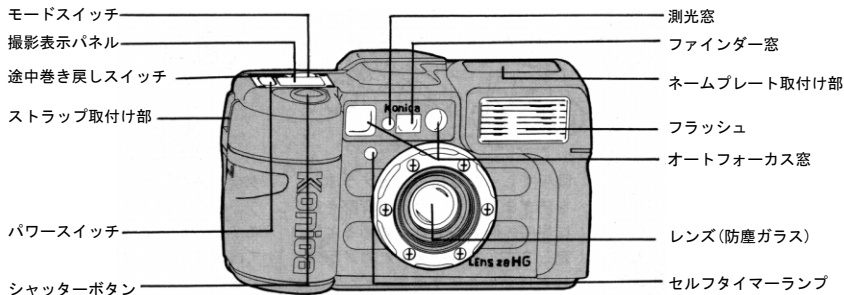
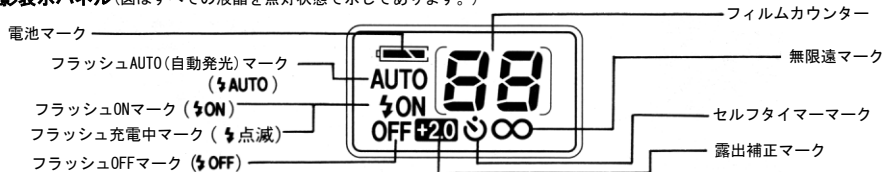
Konica 現場監督 28HG

工事専用カメラ

28㎜ワイドレンズ・防水・防塵・防砂・耐ショック

使用説明書

ご使用前に、必ずお読みください。

各部の名称

モードスイッチ
撮影表示パネル
途中巻き戻しスイッチ
ストラップ取付け部
パワースイッチ
シャッターボタン
測光窓
ファインダー窓
ネームプレート取付け部
フラッシュ
オートフォーカス窓
レンズ(防塵ガラス)
セルフタイマーランプ

撮影表示パネル(図はすべての液晶を点灯状態で示してあります。)

Ｐ（パノラマ）
切替えノブ

ファインダー接眼窓

フイルム確認窓

裏ぶた開放ノブ

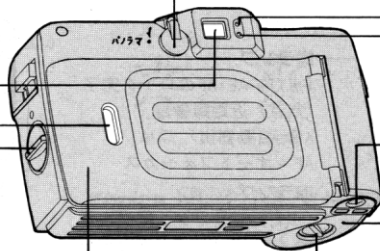
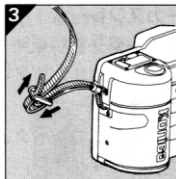
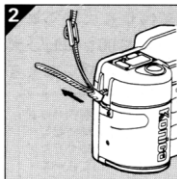
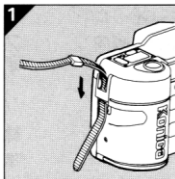
裏ぶた

縁ランプ

赤ランプ

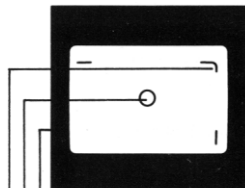
三脚穴

電池室カバー

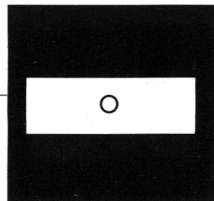
電池室カバー開閉ノブ

ストラップの取付け方

ファインダーと表示ランプ

標準撮影時

緑ランプ
（点灯）AE・AFのロック完了
（点滅）近距離警告
AE=自動露出
AF=オートフォーカス

赤ランプ
（点灯）フラッシュ発光表示
フラッシュ未充電時
（点滅）低輝度連動範囲外警告
（フラッシュOFFモード時）

撮影範囲フレーム
実像式ファインダーですから、
見える範囲がそのまま写ります。

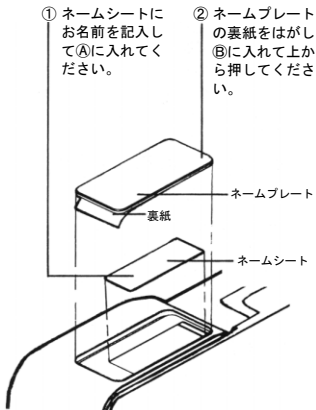
オートフォーカスフレーム
このフレーム内の被写体にピントが
合います。

近距離補正マーク
近距離撮影時には、このマークより
内側が写る範囲になります。

パノラマ撮影時

パノラマ撮影範囲フレーム
このフレームの内側がパノラマ撮影で写
る範囲です。

近距離撮影時には、写る範囲がフレーム
より下方向にずれます。

（オートフォーカスフレーム、緑ランプ、
赤ランプの働きは標準撮影と同じです。）

ネームプレートの取付け手順

この説明書は下記のマークを使用しております。

Konica 現場監督 シリーズ専用フラッシュ GX-26(別売)

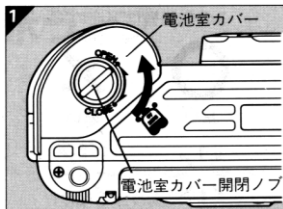
遠距離の被写体を明るく写す、自動調光増灯フラッシュ「コニカ現場監督シリーズ専用フラッシュ GX-26」が別売で用意されています。
コードレスタイプでカメラのフラッシュの発光に同調して発光し、ISO100フィルム使用の場合14mまで撮影できます。防水構造ではありません。

セット内容
・フラッシュ本体
・ブラケット
・ネームプレートセット

撮影準備

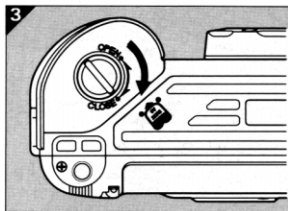
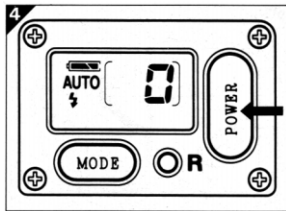
1

まず電池を入れてください

カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布で拭い落としてから、電池室カバーをはずしてください。内部に水滴や砂が入ると故障の原因になります。

電池室カバー開閉ノブを指でつまみ、OPENの矢印方向に回して、開閉ノブとOPEN側の●印を合わせると、電池室カバーがはずせます。

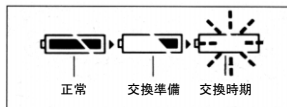
電池をカメラ底部の表示に合わせて正しく入れます。

* 電池の接点側を奥にして入れてください。
* 使用電池はリチウム電池2CR5:6V、1コです。

⚠警　告	爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱をしないでください。
⚠注　意	発熱発火の危険があります。指定外の電池を使用しないでください。

電池室カバーをはめ、カバーを押さえながら、CLOSEの矢印方向に開閉ノブを回して開閉ノブとCLOSE側の●印を合わせるとロックされます。

パワースイッチを押すと、撮影表示パネルに

（電池マーク）
AUTO　（フラッシュAUTO）
0　（フィルムカウンター）

が現われ電源ONになります。

＊ パワースイッチをもう一度押すと電源OFFになります、電源OFFのときには電池マークだけ点灯し、他のマークは消灯します。

電池交換の時期

電池が消耗して、電池マークが2/3白くなったら新しい電池と交換してください。

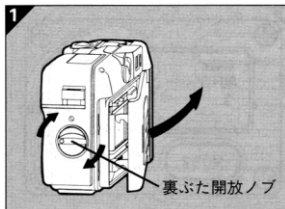
＊ 撮影途中で電池マークが2/3白くなったら、最後まで撮影したあと電池を交換してください。但し、連続のフラッシュ撮影を行なった場合、一時的に電池マークが2/3白くなることがあります。この場合、しばらく時間をおき、パワースイッチを再度入れてください。電池マークが黒く点灯すれば、電池はまだ正常です。

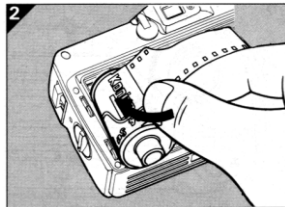
＊ 万一撮影中に電池マークが全部白くなり点滅すると、シャッターはきれません。

＊ 使用済みの電池は、カメラ店または電気店にお持ちください。

撮影準備

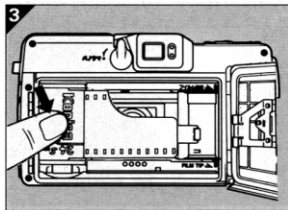
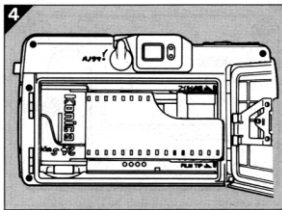
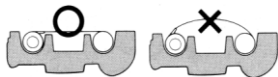
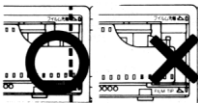
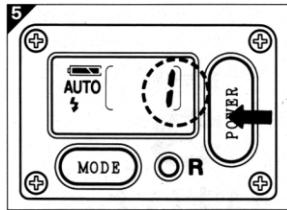
2 フィルムを入れてください

カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布で拭い落としてから裏ぶたを開けてください。内部に水滴や砂が入ると故障の原因になります。
コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

裏ぶた開放ノブを矢印方向に回転し裏ぶたを開けます。

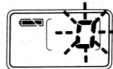
* リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度(ISO)と同一感度のフィルムをご使用ください。

フィルムを入れます。

* DXコード付きの35mmフィルムを使用します。フィルム装てんと同時に使用フィルムの感度が自動セットされます。DXコードのないフィルムはすべてISO25に設定されます。

使用フィルム感度のDX導入感度

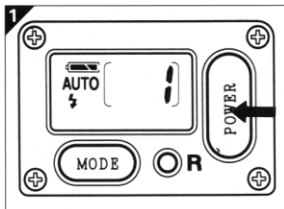
DX導入感度(ISO)	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度(ISO)	25 32 40	50 64 80	100 125 160	200 250 320	400 500 640	800 1000 1250	1600 2000 2500	3200 — —

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押して入れ、フィルムが平らに出るようにします。

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク(◣▮)に合わせて、裏ぶたを閉じます。

* フィルムのパーフォレーション(送り穴)とスプロケット(送り歯車)のかみ合わせを確認してください。

パワースイッチを押すと、フィルムは1枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

* DX導入感度がISO25のフィルム使用の場合は、シャッターボタンを押してください。

フィルムが送られていないときは

フイルムカウンターが0のまま点滅します。
裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

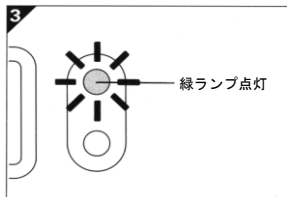
基本撮影

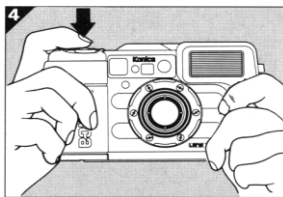
3
いよいよ撮影です
ϟ AUTO

すべての撮影に共通する基本的な撮影の手順です。

パワースイッチを押してください。電源ONとなり、ϟAUTO、1（フィルムカウンター）が点灯します。

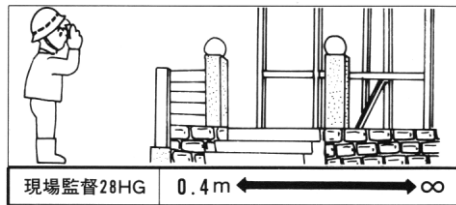
＊ 電源OFF時には電池マークだけが点灯しています。

＊ 防塵ガラスおよびオートフォーカス窓の汚れにご注意ください。もし汚したらきれいに拭きとってください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

* 緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがきれません。
* 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯するので、写される人にも撮影のタイミングがわかります。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

* 撮影が終わるとフィルムが1コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。
* 続けて撮影しないときは、パワースイッチを押して電源OFFにしてください。
* 電源ONのまま放置しても、約30分後には自動的に電源OFFとなります。

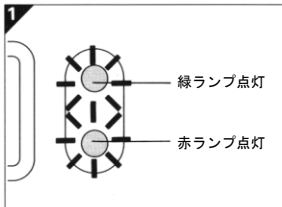
日中撮影の距離

基本撮影

4 緑ランプ点灯

自動フラッシュ撮影

ϟAUTO

暗いときフラッシュが自動的に発光します。

＊ 大光量フラッシュのため空中のほこりなどがフラッシュ光により反射物として、写る場合があります。

シャッターボタンを半押しして、緑ランプと共に赤ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

シャッターボタンをいっぱいに押してフラッシュ撮影してください。

＊ フラッシュ撮影後、赤ランプが数秒間点灯した後消えますが、この間は充電中ですから、シャッターはきれません。

＊ フラッシュは発光する際に熱くなりますので、指で覆わないでください。

フラッシュ撮影の距離

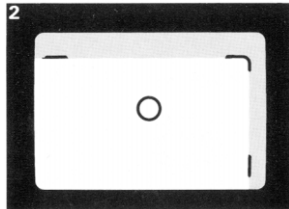
ISO 100	0.4m〜10.0m
ISO 400	0.4m〜20.0m

基本撮影

5

近距離撮影

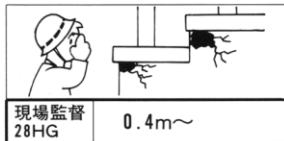
近接した被写体が画面中央からはずれるときは、フォーカスロック撮影をしてください。

被写体に近づいてオートフォーカスフレームに入れてください。

近距離撮影の至近距離

ファインダーの近距離補正マーク内で構図を決め、シャッターをきります。

* 近距離補正マークは、1m以内の撮影時にお使いください。

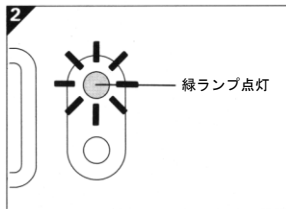
シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは…

至近距離より被写体に近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがきれません。半押しした指をいったん離し、少し離れて押し直してください。

基本撮影

6

フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体が画面中央にないとき、フォーカスロック撮影をしてください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯してピント位置が固定されます。

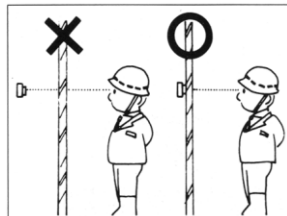
＊ 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯します。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、やり直しができます。

＊ フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをいっぱいに押して撮影します。

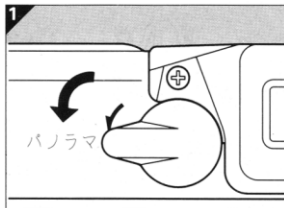
オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

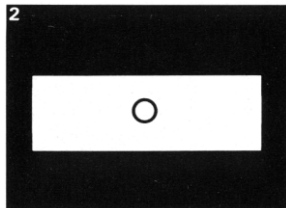
①光沢のあるもの
②反射しにくい黒いもの
③小さいもの細いもの
④発光体
⑤雨、霧、煙等の実体のないもの

＊ ガラス越しの撮影は、オートフォーカスが働かない場合がありますから、同じ距離のものに向けてフォーカスロックしてください。
また、ガラスに密着させても正しい測距ができます。

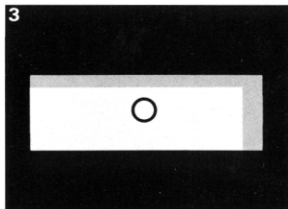
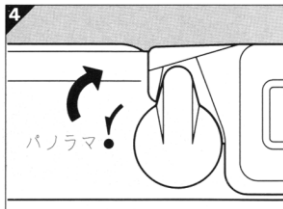
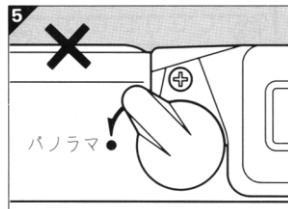
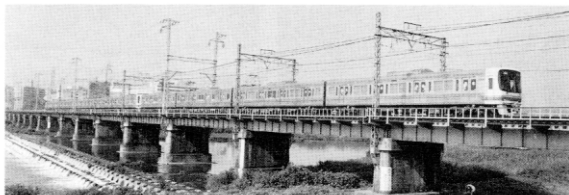
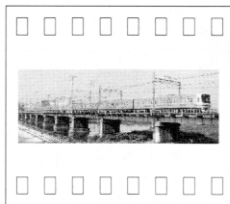
基本撮影

7

パノラマ撮影

撮影の途中で横(縦)のパノラマの画面に切替えができ、広がりのある風景や長くならんだ集合人物などを、ダイナミックに表現できます。

Ｐ切替えノブを下方に回して、指標をパノラマ・ に合せるとパノラマ画面になります。

＊ ファインダーも同時にパノラマ用に切替わり、撮影範囲フレームが現れます。

パノラマ撮影範囲フレーム内で構図を決め、撮影してください。

＊ 構図上被写体がオートフォーカスフレームからはずれる場合はフォーカスロック撮影をしてください。

近接撮影をすると写る範囲が下方向にずれますから、構図に余裕をもたせて写してください。

パノラマ撮影が終ったら切替えノブを上方に回して、元に戻してください。標準画面に戻ります。

パノラマ切替えノブは必ず標準位置またはパノラマ位置に合せ、途中で止めて撮影しないでください。

＊ このカメラのパノラマ撮影はカメラ側で標準撮影画面の1コマ分の上下を遮光して約13×36㎜の横長に写し込み、プリント段階でパノラマサイズ(89×254㎜)に仕上げるものです。

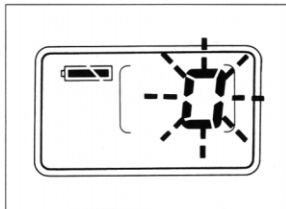
現像・プリントを依頼されるときのご注意

パノラマ撮影をしたフィルムの現像・プリントをDP店にご依頼になるときは、付属のパノラマシールをパトローネ(フィルムの容器)に貼って、必ず「コニカカラー百年プリント“パノラマサイズ”で」と指定してください。ご指定のない場合は、標準のサービスサイズでプリントされる場合があります。
シールの使い分け:標準撮影の途中でパノラマ撮影した場合は、「パノラマ／標準混在」シール、全てパノラマ撮影した場合は「全数パノラマ」シールを貼ってください。

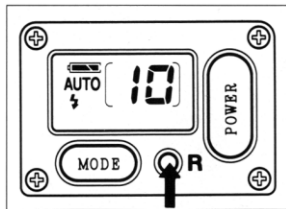
基本撮影

8

フィルムの取り出し方

フィルムの規定枚数より多く撮影した場合､最終画面が重なることがあります。
写し終わったフィルムは､お早目にカメラ店に持参し｢コニカカラー百年プリント｣とご指定ください。

フィルムが最後になると自動的に巻き戻され、巻き戻し完了で停止します。フィルムカウンターの 0 の点滅を確認した上でフィルムを取り出してください。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して逆算します。

＊ 裏ぶたを開けるとフィルム枚数計の 0 が一瞬点灯し、電源ONになります。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し（R）スイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルム巻き戻しができます。

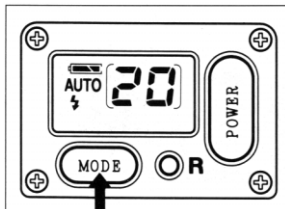
＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

＊ 途中巻き戻し（R）スイッチをシャープペンシル等の鋭い先端部で押すと故障の原因となります。

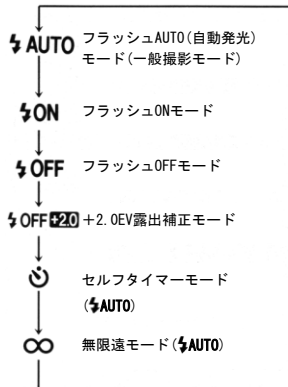
応用撮影

9

モードスイッチの切替え

被写体に応じて最適な撮影方法を選択できます。

モードスイッチを押すと、撮影表示パネル上に６つのモードが、順次表示され循環します。

＊ 通常は⚡AUTOになっています。

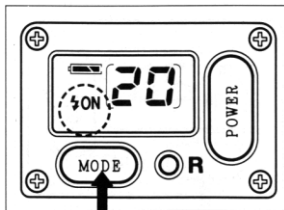
＊ ⚡ON、⚡OFF、⚡OFF +2.0、∞の各モードは固定され、一度設定したモードで撮影を続けられます。撮影が終ったら一般撮影モードに戻しておきましょう。

＊ セルフタイマー撮影 では、１コマ撮影後、フラッシュAUTOモードに自動復帰します。

応用撮影

10
日中フラッシュ撮影
ϟ ON

（フラッシュONモード）
フラッシュが常時発光するモードです。逆光や室内窓際の被写体を明るくきれいに写します。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟONを出します。

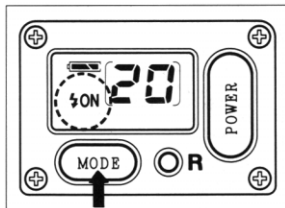
フラッシユ撮影

被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

＊ シャッターボタン半押しで、緑ランプと同時に赤ランプが点灯します。

フラッシュなし

応用撮影

11 スローシャッターシンクロ ϟ ON

（フラッシュONモード）
夕方や夜間の撮影で､スローシャッターによるフラッシュ撮影が行われ､バックも被写体も共に明るく写せます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟONを出します。

＊ カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

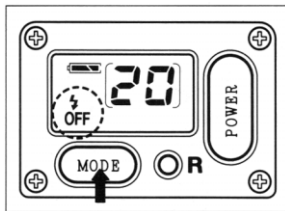
スローシャッターシンクロ

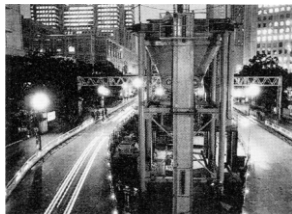
暗い場所で被写体に向けてシャッターをきれば、1/15秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

ϟAUTOのフラッシュ撮影

応用撮影

12
フラッシュなしの撮影
ϟ OFF

（フラッシュOFFモード）
フラッシュが発光しないモードです。フラッシュ撮影が禁止されている美術館や都会の夜景撮影などにご利用ください。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟ OFFを出します。
被写体に向けてシャッターをきれば、1/4秒までフラッシュなしの自動露出撮影ができます。

＊ シャッターボタン半押しで赤ランプが点滅したときは、カメラぶれの警告です。三脚をご使用ください。

暗くて自動露出が働かないときは、最長２秒の超スローシャッターに切替わります。（２秒バルブ）

＊ このときはシャッターボタン半押しで、赤ランプがゆっくり点滅します。

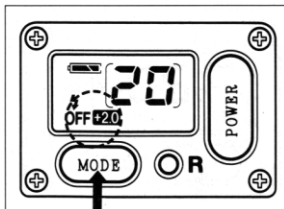
＊ ２秒バルブは、２秒以内であれば、シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

応用撮影

13

＋2.0EV 露出補正撮影

ϟ OFF +2.0

（＋2.0EV露出補正モード）
露出を多めにかけたいときに使うモードです。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにϟ OFF +2.0 を出します。

＊ 明暗コントラストの強い建物など、風景の暗部を明るく写したいときにも、このモードを使ってください。

＊ 暗い場所では三脚を使用してください。

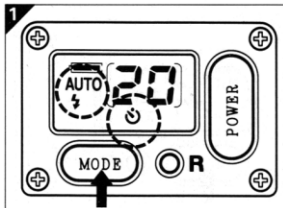
＋2.0EV露出補正撮影

被写体に向けてシャッターをきれば標準より約2.0絞り分明るい自動露出補正撮影ができます。

ϟ OFFのフラッシュ撮影

応用撮影

14 セルフタイマー撮影 ౦

（セルフタイマーモード）
人出を借りずに､撮影者自身が作業をしている状況を撮影できます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに ౦ を出します。

＊ セルフタイマーモードにセットすると、AUTO（フラッシュ自動発光）になります。

＊ 三脚をご使用ください。

＊ フォーカスロックもできます。

被写体に向けてシャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

＊ ７秒点灯後、３秒点滅します。

＊ カメラの前から操作すると正しいピントが得られません。

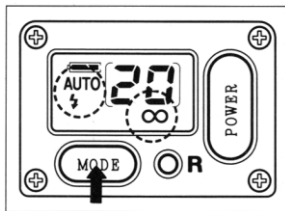
＊ 撮影終了で一般撮影モードに戻ります。続けてセルフ撮影する場合はセットし直してください。

＊ パワースイッチを押すと作動中のキャンセルができます。

応用撮影

15

遠景撮影

（無限遠モード）
ピントが無限遠に固定されるモードです。日中の遠景撮影、特に窓ガラス越しの遠景撮影に有効です。

ガラス越しの風景を無限遠撮影

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに∞を出し撮影します。

＊ 無限遠モードにセットすると、⚡AUTO（フラッシュ自動発光）になります。

＊ 夜景や日没前後の夕景など、暗いときの遠景撮影では、フラッシュなしの撮影をしてください。

一般撮影

おもな仕様

＊下記性能については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形　　式	レンズシャッター式ＡＦ全自動35mmカメラ
画面サイズ	24×36mm（13×36mm・パノラマ撮影時）
レンズ	コニカレンズ、28mm F3.5（5群 5枚構成）レンズ前面に防塵ガラス
パワースイッチ	電源ONでオートローディング・シャッターロック解除・液晶点灯・約30分後自動的に電源OFF、電源残量マーク表示、電源OFFでシャッターロック・電池マーク以外の液晶消灯・セルフタイマーキャンセル
シャッター	プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、1/4秒～1/280秒　2秒バルブ付
焦点調節	赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲・0.4m～∞、0.4m以内の近距離ロック、フォーカスロック、無限遠撮影可能
露出調節	CdS 受光素子使用のプログラム自動露出調節中央重点測光
露出連動範囲	ISO 100・EV5.5～EV16.5
フィルム感度	自動設定(ISO 25～ISO 3200)
ファインダー	実像式ファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク、パノラマ撮影切替え時にパノラマ撮影範囲フレーム、ファインダーわきに緑ランプ（ＡＥ・ＡＦロック時点灯、近距離ロック時点滅）、赤ランプ（フラッシュ発光時点灯・未充電時点灯、低輝度警告時点滅）
フラッシュ	手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲・ISO 100・0.4m～10.0m、発光間隔・約5秒
モード切替え	フラッシュ自動発光、フラッシュON.、フラッシュOFF、＋2.0EV露出補正、セルフタイマー撮影、無限遠撮影の6モードを循環、液晶パネルに表示
セルフタイマー	電子式、作動時間約10秒、セルフタイマーランプが約7秒間点灯した後約3秒間点滅、途中解除可能
フィルム給送	電動式、パワースイッチでスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	順算式、液晶パネルに表示
電池寿命	50%フラッシュ発光のとき約20本
電　　源	リチウム電池(2CR5:6V) 1コ
防　　水	種類・JIS保護等級7（防浸形）、意味・定められた条件で水中に没しても内部に水が入らないもの、試験・水面下1mで30分間水中に放置
大きさ	142.5×83.5×57mm
質量（重さ）	375g（電池別）